

ご来園の皆様の感染防止のために



京都市立植物園の観覧温室は、6月1日(月曜)より開室します。

しかしながら、未だ予断を許さない厳しい現状もあり、ご来園の皆様に対して感染防止の要請と園内の規制対策を行っていますので、ご理解ご協力いただき「憩いの場」としてご利用ください。

また、各種ガイド案内・講演会・講習会等の植物園主催行事は当面中止させていただきます。

【ご来園前のお願い】

- ◆ご来園前に、検温等を行ってください。
- ◆2週間以内に感染が拡大している国への訪問歴がある方はご入園をお断りします。

【ご入園時のお願い】

- ◆入園門では、サーモグラフィー等にて体温確認させていただきます。
- ◆発熱、咳、咽頭痛などの症状がある方はご入園をお断りします。
- ◆ご入園の際は、マスク等の着用をお願いします。

【ご入園後のお願い】

- ◆マスク等の着用、手洗い・手指の消毒をお願いします。
- ◆人の密集が想定される次のエリア等を一部封鎖しています。
 - ・観覧温室
 - ・未来くん広場(遊具、きのこ文庫)
 - ・ばら園(土曜・日曜のみ)
- ◆人の密集を避けるため、テーブルやイスを撤去しています。
 - ・ばら園、植物園会館等

スマホdeガイド



QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都市立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! ‘おすすめ樹木めぐり’ ‘おすすめエリアガイド’などをスマホで確認し、植物観察!

※年間パスポート好評発売中

- ・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!
大人1000円 高校生750円
- ・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。
※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



今週の「探して！」
2020. 5. 29
3号

⑫ ハナビシソウ

ケシ科。北アメリカ大陸南西部原産。名前の由来は、日本の家紋の一つである「花菱紋(はなびしもん)」に花の形が似ていることによる。花は日光を受けて開くため、曇天や雨天時には閉じており、晴天時に全開となる。

⑪ デルフィニウム

キンポウゲ科。原種は北半球の温帯地域を中心に200種あまりが分布。つぼみの形がイルカに似ていることから、ギリシャ語で「イルカ」を意味するDelphisが名前の由来。花びらの青い色素はデルフィニジンと呼ばれる。

⑩ シャクヤク

ボタン科。シベリア、中国、モンゴルが原産。日本には中国から薬用植物として渡来。ボタンは木本で冬も枝が残るのに対し、シャクヤクは草本で冬は地上部が枯れ、地中の根や芽で冬越しする点で区別できる。

⑨ ハナショウブ

アヤメ科。日本や朝鮮半島、中国東北部、シベリア東部に分布。江戸時代に東北地方に自生している野生種の変異株をもとに選抜・改良がなされた。「江戸系」「肥後系」「伊勢系」など、育成地ごとに草姿・花型に特徴がある。

① クロタネソウ

キンポウゲ科。原種は南ヨーロッパ地中海沿岸から西アジアに自生。属名の「ニゲラ」としても知られる。ラテン語で「黒い」を意味するNigerが語源となっている。和名のとおり、花後に結実して黒い種子ができる。

② アリウム ギガンテウム

ヒガンバナ科。中央アジア原産。アリウムには約700種の野生種があり、タマネギ、ニンニク、ラッキョは同じネギ属の仲間になる。小花を球状に密生させ、直径約20cmの花序をつくる。大型種の代表。

③ キリンソウ

ベンケイソウ科。日本の山地から千島、カムチャッカ、シベリアなどに分布。和名の「黄輪草」は、黄色の花が集まって咲く様子を例えたもの。他に中国に伝わる想像上の生き物「麒麟」にちなむという説もある。

④ ガウラ

アカバナ科。北アメリカ原産。和名は淡桃色の花から山桃草(ヤマモモソウ)。花の形や色に由来し、白蝶草(ハクチョウソウ)との別名もある。ガウラはギリシア語の「堂々たる」、「華麗な」を意味するgaurosに由来し、美しい花にちなむ。

⑤ バイカモ

キンポウゲ科。直径1.5cmほどのウメに似た花を咲かせ水中に生えることから「梅花藻」と名が付いた。北海道から本州にかけて分布。南限である近畿地方では、現在、滋賀県と兵庫県で自生が確認されているが、京都府では既に絶滅。

⑥ サラサウツギ

アジサイ科。ウツギが変異した八重咲き種。花卉の外側が紅紫色になるが、個体によって濃淡がある。サラサ(更紗)とは花の色で、赤と白が交じっているものをいう。ウツギ(空木)は幹が中空であることに由来。

⑦ ジキタリス

オオバコ科。原種は地中海沿岸を中心に中央アジアから北アフリカ、ヨーロッパに分布する。花の形が指サックに似ていることから、ラテン語で「指」を表すdigitusが名前の由来。

⑧ ムラサキ

ムラサキ科。北海道から九州にかけて分布。名前は紫色の根を染料や薬用に利用してきたことに由来する。古くは京都市北区の紫野など、各地に自生していたとみられるが、現在では絶滅危惧種に指定されている。

